

2部門で文部科学大臣表彰を受賞

平成21年度科学技術分野の文部科学大臣表彰受賞者が文部科学省から公表され、2部門で文部科学大臣表彰科学技術賞を受賞しました。

科学技術賞（研究部門）「植物のアレロパシー現象とその作用物質の解明に関する研究」

受賞者：藤井義晴（生物多様性研究領域）

藤井首席研究員は、アレロパシー現象を作用の経路ごとに評価する、新たな4つの生物検定法を開発して、約4,000種の植物を検定し、ムクナ、ヘアリーベッチなどが強いアレロパシー作用を持つこと、現場でも雑草抑制作用があることを明らかにしました。これらに含まれるアレロパシー物質を分析することにより、ムクナからレドーパを同定、ヘアリーベッチからはシアナミドを世界で初めての天然物として発見しました。また、このほかに9種の新規生理活性物質を発見し特許を取得しています。

これらの研究の結果、ヘアリーベッチは、果樹園や水田での雑草抑制の能力が高い緑肥植物として全国で利用され始めており、これを利用してJAS有機認証を得た果樹農家や稲作農家があります。

この成果はアレロパシー検定法の国際基準となり、新たに同定されたアレロパシー物質は、従来の合成農薬に替わる安全性の高い農薬の開発に役立ち、その成分を含む植物を有機農業に直接利用して安全な食料生産に寄与することが期待されます。



4月14日表彰式の会場(虎ノ門パストラル新館)前で



4月14日表彰式の会場で
(左から山本、松本、守山、原田、井手)

科学技術賞（理解増進部門）「ミニ農村の創造・展示による農村の生物多様性の理解増進」

受賞者：守山 弘（名誉研究員、元環境管理部首席研究官）、松本 公吉（研究技術支援室）、原田 直國（生物多様性研究領域契約職員）、井手 任（企画戦略室長）、山本 勝利（生物多様性研究領域主任研究員）の5名

筆頭受賞者である守山名誉研究員は、農村環境に特有の生き物が、農業に関連する人の働きかけによる小規模なかく乱によって維持されてきたこと明らかにし、二次林、ため池、田畑、社寺林を備えた実物大の農村環境モデル（ミニ農村）を造成することによって、ため池や二次林など生息空間の配置が生き物の存続にとって重要な要因であることを示しました。さらに、多くの著書や講演などによって農村の二次的な自然のなりたちと生物多様性保全における重要性を提唱し、また、ミニ農村の展示によって理解の増進につとめました。

また、松本研究技術支援室員は、周辺地域の伝統的な管理方法を参考にしながらミニ農村の維持管理を担当してきました。

これらの成果は、生物多様性国家戦略における人間の働きかけによって維持されてきた自然の重要性の認識に貢献し、農村における生物の保全をめざす多くの取組みに活用されています。

なお、松本氏のご病気のため、7月4日逝去されました。謹んで故人のご冥福をお祈りします。

(広報情報室長 廉沢 敏弘)